
真っ白でそのまま

荒木ヒロ

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

真っ白でそのまま

【Nコード】

N3547C

【作者名】

荒木ヒロ

【あらすじ】

先生とボクの対話を書きました。

真っ白でそのまま

。ムム。

(前巻)

あら、おはよう。今日はどうしたの？

彼女はペンを止め、振り向いた。いつもと同じく、机の上にはカ
ルテがあつて、ゆっくりと閉じそれを引き出しの中にする。きつ
とあれは、ボクが見てはならない物なのだ。

おはようございます。

ボクはゆっくりと礼をし、フカフカの椅子に座った。どう？調子
は、どこか変わった所はある？彼女は長い足を組み替えた。

いいえ、気分もいいし、体も大丈夫です。そう、良かったわ。…
…あの、先生？

ん、なあに？聞いていただきたいことがあるんです。なあに？あ
らたまつて。

時間はよろしいのでしょうか？

もちろん、大丈夫よ。どうかしましたか？いえ、何も。じゃあ始
めます。はい、どうぞ？

今日は、昨日眠る前に考えていたことについて、言っておこうと
思いました。何について？大体は本です。大体は本？そうです。本
なんて読むんだ？はい読みます。なんて言う本？これです……。

見えないようにしていた本を渡した。

なあに？これ、真っ白じゃない。はい。どこにあつたの？昨日、
朝起きたら、枕元に置いてありました。あらそう。そうです。全部

読んだの？いえ。ふうんどれどね？どうですか？これ、とても面白いわ。本当に？ええ。もし良ければ、貸してくれない？良いですけど。けど？良いのでしょうか？君のじゃないから？はい（ボクは嘘をついていた。それは一昨日、知らないおじさんに頼んで作ってもらった物だ）。そうね、大丈夫よ。それは、どうしてですか？誰かの忘れ物だったら、誰かが探しているはずよね？はいそうです。その人に会ったとき、謝って返せば良いわ。それで大丈夫なのでしょう？うか？うん、きっと大丈夫よ。きっとですか？絶対、大丈夫よ。

あの、それで……。ああごめんなさい、話だったわね、大体はこの本のこと？大体はそうですが、少し違います、先生は、読んだままでいても良いです。あらありがとう、じゃあそうさせてもらうわどうぞ。それで、少し違う話ってというのは？小説家について、です。小説家？そうです。興味深いわ、この本を読んで考えたの？違います。そう、いいわ、続けて？……はい。

昨日考えていたことを、引っ張るように思い出した。

彼らは、と敢えて言いますが、それには……。彼女らもいる？そうです。ごめんなさいね？いえ、続けてもよろしいでしょうか？いいわよ、もちろん。

彼女が本をめくる。

それで、小説家という人達は、少しだけ狂っているのだと思います。狂う？そうです。へえ、なかなか面白いけど。けど？それはもちろん、良い意味でよね？そうです。なら良いの。そうですか。うん、悪い意味ではないと言い切れるのよね？今一度言いますが、そんなことは決してありません。信じるわよ？はい、もちろん良い意味だと言えます、嘘はありません。良かった、それだけ言うと、ま

るで揶揄に聞こえちゃうもの。そういうものですか？そういうものよ。ボクは褒めているつもりです。そう？そうです。でも気を付けなくちゃいけないわよ？わかりました。本当に？本当に。

……続けても良いでしょうか？いいわ、続けて？

次の部分を引っ張り出す。彼女はページをめくった。

どうしたの？今話します、彼らは例えば、窓を通り抜けてしまうような人達だということなんです。あの……ごめんなさい。どうしたんですか？よくわからないわ。そうですか？ええ。説明しますか？お願い。わかりました。悪いわね。いえ、狂う、というのは、言い換えれば、他の人が考えていないようなことを考えている、ということですよ。考えていないようなこと？そうです。例えば？さっき話したばかりですが、もしかしたら例が悪かったのかも知れませんが、そうね、先生には少し難しかったわ。ごめんなさい。謝らないで？そんなに暗い顔にならないで頂戴？わかりました。先生、あなたのそんな顔、見たくないわ。

よければ、別の例えで続けてくれるかしら？もちろんです。ごめんなさいね？大丈夫です。ありがとう。いえ。何の話だったかしら？狂気の話です。そうだったわね。そうです。それで小説家は、人が考えていないことを考えている？簡単に言うと、そうです。どういうことなの？彼らの脳は、宙に浮いているんです。う、ううん、それは、別のところにいる、ということかしら？その通りです、彼らは、ボク達とは別次元にいる。別次元かあ。そうです。

彼女は肘をついて考えた。

もしかしたら、求めているのかもね。何をです？狂気を。狂気……

…それは、気がつかなかった。あらあなた、小説家なのに？気づいていたんですか？もちろん。どうして言わなかったんです？どうして隠してたんです？ふふ。はは。おかしいですね。ええ、とても。そうですね。でしょう？はい。どうして、この本を自分が書いたって言わなかったの？

……

どうしたの？いえ、別に、なんでもありません。理由はないの？はい、そうです（ボクはまた嘘をついた）。変なの。そうでしょうか？少しだけね。……先生？なあに？どうして先生は、小説家が狂気を求めていると思ったのでしょうか？そうね……君がそういう目をしているから。ボクが？そうよ。

だってあなた、すごく遠い目をしてるわ。ボクの目は遠いですか？ええ、まるでどこか違う世界にいつちゃったみたい。でも、ボクはここにいます。もちろんよ、そういう意味じゃなくて、あなたは心ここにあらずだって言うこと。確かに。なに？そうかも知りません。そうですね？ええ、ボクが小説家かどうかは誰にもわかりませんが、実際、ボクは狂気を渴望しています。というと？ボクにとつて狂気は、最も不可欠で生まれにくい物ですから。そういうものなの？そういうものです。

ところで先生？はい？先生の一番好きな小説家は、誰でしょうか？そうね、ところであなた、舞城王太郎って知ってる？……はい。読んだことは？ありません。あなたは、あの人をどう思うのかしら？そうですね。どうしたの？今考えています。そう？そうです。

あの方は狂っていると思います。もちろん良い意味で？そうです。

良かった。もちろんです。

あなたにそう言ってもらえて、先生も嬉しい、私ファンなの。

そうですか……。そうなの。

先生は、ボクの真っ白の本を今すぐにでも捨てて、あの人の本を読みたいと思っているのだろうか？

先生？

どうしたの？それ……。ああこれ？とても面白いわよ。本当ですか？ええもちろん。

いつまでも、あの人の取って代えられないよう、ボクは書き続けるだけである。

彼女のために、ボクは書く。願わくは、ずっと書く。

次の日に、ボクは死んだ。

(後書き)

まだまだだな俺。もっと修行せねば。

真っ白でそのまま

真っ白でそのまま

PDF小説ネット発足にあたって
PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3547c/>

真っ白でそのまま

2009年3月24日10時07分発行